

1. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成 21 年 2 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302313		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム ささはら		
所在地	〒963-0111 福島県郡山市安積町荒井字茂平6-11 (電話) 024-946-3595		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 13.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000円(4月~10月) 15,000円(11月~3月)	
敷金	有() 円 ● 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	● 有(19,950 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やぎぬまきクリニック しろくま歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者を中心に計画作成担当者、職員がそれぞれの役割を認識し、意思疎通が図られており利用者本位のケアに取り組んでいる姿勢が感じられる。介護計画も利用者の状態像の把握が困難な方には、日常生活の中から思いや意向を把握しながら、再度アセスメントを繰り返し、慎重に計画に落とし込んでいる。援助内容が具体的であり、日々提供されたサービス結果の記載も明確であることから、評価がしやすく見直しの原因の把握が適切である。介護職員間の意見交換が自由に行われる職場環境となっている。利用者は明るい快適な居住空間の中で落ち着いて自由に過ごしている。災害対策については、自主的に避難訓練を行っているが、今後は防火管理者のもとに、地域の協力を得ながら消防署立会いによる訓練を実施することとしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 思いや意向の把握については、馴染みの暮らし方の把握が困難な方にも計画作成担当者を中心に日々の生活の表情や行動から感じ取る努力を行っている。災害時の備蓄については整備されており、改善に向けて取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価には全員でかかわっており、管理者が総括的にまとめ取り組みの事実に対する評価も適切である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は定期的開催されているが、議事録から自己評価や外部評価の結果についての公表や改善についての取り組み状況の説明がなかったのは残念である。取り組みや改善経過のモニター役として運営推進会議を活用することが望ましい。会議を通して町内会との災害や消防に対する連携・協力は図られている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 定期的に利用者の健康状態や事業所での生活状況を担当職員から手紙で知らせている。また、「ささはら便り」を職員がパソコンを活用し、カラー写真やイラストを入れながら家族に送付している。金銭管理も適正に記帳、管理され家族に報告してある。意見箱の整備を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会総会にも出席し、事業所の行事等を伝達したり、恒例のお茶会にはチラシを配布するなどし、地域のボランティアの協力を得ながら交流に努めている。地域の花火大会の際は、事業所が花火鑑賞に最適な立地条件にあるため、地域の人たちに場所を提供するなどして、一緒に鑑賞している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に据えた「地域に愛され やすらぎと憩いのあるホーム」の実現を目指して、地域行事への参加および近隣住民との親交に務めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念を読み上げたり、日常のサービス向上について積極的に関わることを意識して利用者に接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の総会、クリーン作戦への参加、老人会、神社の例大祭など地域の多様な催し物に参加している。一方で事業所の情報も開示し、お茶会などを主催する時には近所にピラを配って、外部からの参加を促す努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全体が数項目ずつ分担して作成にかかわり、管理者が取りまとめる形で行っている。職員との面接時にも作成の過程でそれぞれの気づきが触発され理解が深まっているのを感じた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催されており、議事録からは出席者の発言内容の記載はあるが、前回の外部評価の結果を報告した記録は見当たらなかった。		議事録については、開催の際には委員の職名を明らかにして発言趣旨を記載してはどうかと思われる。外部評価の結果については出来るだけ、公表後速やかに報告することが望ましい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員から利用者の近況や受診状況などを知らせる手紙に添えて、金銭出納帳のコピーとレシートを送付している。また、行事の写真などを掲載したユニットごとのカラフルな「ささはらだより」を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では家族の活発な意見が記載されている。また、面会時には家族が話をしやすい雰囲気を作っているが、尚一層忌憚の無い意見や要望に応えるために意見箱の設置も検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人内での止むを得ないケースにとどめるようにしているが、担当職員が連携をとって柔軟に対処し、利用者の混乱を防いでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については、職種ごとのレベルアップ・スキルアップ研修計画があり、該当する職員が参加している。福島県認知症グループホーム連絡協議会へ加入したため、外部研修への一層の参加を行うこととしている。		研修を受けた職員が中心になって、事業所独自の研修計画を作るなど、なお一層資質の向上を図ることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人運営のグループホームとの交流や情報交換は行っているが、他法人運営のグループホームとの交流等は行っていない。	○	他の同業者への視察研修や実践的な交流を行うことにより、サービスの質の向上に役立つものと思われる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が現役で台所に立っていた頃の献立などを教えてもらって一緒に調理し、感想を述べ合ったり、個人的な人生履歴や思いを聞き取って話し合い、一緒に考えたりすることで、利用者の安心感や職員との親密感を育てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一部東京センター方式を活用し状態を把握し、利用者の日常生活行動から思いや意向を感じ取り、また、家族等からの情報を取り入れながら、意向の把握に努めている。過去の生活の把握やメンタルな面の把握困難な利用者には、アセスメントを繰り返し把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れた計画となっており、同意を得て実施している。利用者や家族の希望を踏まえ、ケース会議の中では職員が介護計画に対する意見を率直に出し合い全員が納得した、個別・具体的な計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間内に見直しを行っており、課題分析を行うため、ケース検討会議で十分意見を出し合い、主治医や家族等と話し合い、適時見直しが行われている。また、見直しの根拠を明確にするため、計画と介護記録を連動させ、評価がしやすくなっており、現状に即した計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの往診クリニックや、かかりつけ医との関係を重視し、連携は十分図られている。家族が受診に付き添う場合でも、日頃の利用者の身体状況を十分伝え、適切な受診が行われるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算対象事業所であり、重度化した場合の看取り指針を作成し、利用者、家族等の事前確認書の同意を得ている。看護師の定期的訪問による健康状態の把握もなされており、主治医との連携により終末期ケア体制を整えているところである。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時には個人情報保護に関する誓約書を提出し個人情報保護に努めている。利用者のプライバシーを尊重し誇りを損ねないよう言葉遣いにも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は比較的静かであるが、それぞれのペースで自由に過ごしている。職員も利用者の会話に耳を傾けながら、ペースにあわせて支援しており、出来るだけ希望に添うよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳など利用者の力量に合わせて行っている。利用者の好みや調理方法を工夫しながら、職員も利用者と一緒に食事の楽しみを共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能となっており、利用者の体調を把握するため、バイタル測定を参考にしながら、できるだけ希望に応じて入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望や得意なことを把握し場作りをしながら支援している。テーブル拭きをしたり、襟巻きを職員と一緒に編みながら楽しんでいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	自ら外出を好む利用者は少ないようであるが、気分転換を含めて、ドライブや散歩・外食など外出の機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員がさり気なく見守り一緒に行動するなどし、日中は鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画により、定期的に災害時を想定し、夜間想定も含めて避難訓練を実施している。開設後まだ、消防署立会いによる訓練は行っていない。また、管理者が変更になったこともあり、事業所の防火管理者はいない。備蓄は整備されている。	○	法人には防火管理者がいるが、事業所の防火管理者を選任することが必要であるため、防火管理者として資格を取得することが必要である。また、開設後、間もなく4年になることから地域の消防署に立会いを依頼し、避難訓練を実施することが必要と思われる。併せて非常階段の手すりも片側だけなので検討されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表により一人ひとりの食事量や水分量を把握し、日々のバイタルチェックを行っている。またそれらの情報を職員間で共有し、変化がある場合は主治医と相談し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すぐそばを国道が走っているが、川を挟んでいるためか外部の騒音は入ってこない。明るく安全にレイアウトされた広いリビングから、夏には近くにあるテーマパークの花火を鑑賞できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	よく手入れされた時代物の筆筒やテーブルが置かれている居室もあり、それぞれの好みに応じた部屋作りがされている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームささはら

記入担当者名 佐藤 かをり

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。